

## 18年度 Q3 決算電話会議 質疑応答要約

### Q) 第3四半期の事業セグメント利益は、社内計画に対して上振れだったのか？

A) 定量的なコメントは行わないが、P&S 事業がグローバルで堅調に推移したことにより、社内想定に対しては上振れての着地となった。

### Q) 計画に対しての進捗率が高いにも関わらず、上方修正しないのはなぜか？

A) 中国経済の減速や Brexit など様々なマクロリスクがあり、不透明な部分が多い。P&S 事業は堅調に推移しているが、下振れリスクがある事業もあることも考慮し、全て据え置きとしたもの。

### Q) プリンティング事業の競合環境に変化はあるか？

A) 全体的に大きな変化はない。一部の製品で、低価格帯で競争が激しくなっていると認識しているが、ブラザーは収益力強化を重視しているため、収益性が低いモデルの販売を抑制する方向で事業を進めている。そのため、現時点では大きな影響はないと思っている。

### Q) プリンティングの在庫の状況に問題はないか？

A) 問題ない水準だと考えている。前年度に比べると全体的に在庫水準が高くなっているが、これは工場の稼働計画からある程度予想されていたことであり、悪い在庫増加ではない。

### Q) 産業機器の IT 関連向けの見通しに変化はあるか？

A) 静かな状況が続いており、上期時点から変化はない。

### Q) 産業機器の受注環境に底打ち感は見られるか？

A) 中国向けの受注は夏ごろから弱い状況が続いているため、ここからさらに受注水準が切り下がっていくというイメージはない。ただ、現時点では回復の兆しもないため、当面弱い状況が続く可能性はある。

### Q) ドミノ事業、米州が回復しているように見えるが、トレンドに変化があるのか？

A) 米州は上期の立ち上がりがスローだったものが、下期に入ってキャッチアップしてきたもの。アジアについては、マクロトレンドと同様、中国がやや弱い状況となっている。ただ基本的にはグローバルに安定的に拡大していくビジネスだと考えており、トレンドに大きな変化はないと考えている。

以上